

「日本型教員養成教育ア krediyteeshon・システムの開発研究」フォーラムを開催

東京学芸大学では、平成 26 年度から、文部科学省から特別経費を得て「教員養成評価開発研究プロジェクト」を立ち上げ、教員養成教育を行う他の大学や学校・教育委員会関係者等と連携して「日本型教員養成教育ア krediyteeshon・システムの開発研究」事業を推進している。

第 1 回評価（岡山大学文学部、同大学理学部、玉川大学工学部、北海道教育大学教育学部 釧路校）の結果を踏まえ、9 月 6 日（日）に学術総合センター中会議場においてフォーラム「教員養成教育のア krediyteeshon の活用可能性を探る～教員養成教育認定評価 1 年目の成果検証～」を開催した。

まず、文部科学省初等中等教育局茂里教職員課長から「教員養成教育の質保証に関する今後の政策展望」と題して基調講演が行われ、今後の教職課程の第三者評価のあり方に対する政策展望などについて説明があった。

次いで、実施大学の玉井康之北海道教育大学釧路校キャンパス長、田仲洋己岡山大学文学部教授から報告があり、評価員の小林稔京都教育大学教職キャリア高度化センター教授から報告があった。

この後、茂里教職員課長、森山賢一玉川大学教師教育リサーチセンター長、早川三根夫岐阜市教育長、高野和子明治大学文学部教授をパネリストとして「教員養成教育認定評価はどう活用できるか」というテーマでパネルディスカッションが行われた。

第 1 回目となる本フォーラムでは、約 100 名の国公立大学関係者等から参加を得て、活発な質疑応答が行われるなど、本開発研究への関心が高まっていることが実感された。



挨拶をする出口学長



基調講演をする茂里教職員課長